No. 1

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲％
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％ 0.6
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	1.0
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上水道水・上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	2.62	1.64	－

水セメント比	53.5％	水結合材比	－％	細骨材率	45.2％	
備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②	60.0:40.0		

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－ 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

（1）変動係数（v）　当工場の実績により　v ＝ 9　％

（2）配合強度（m）

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.94$ N/㎟

よって　$m = 32.94$ N/㎟

（3）水セメント比（W/C）　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (32.94 + 24.5) \times 100 = 53.5$ ％ ≦【55％（上限値）】

∴W/C ＝ 53.5 ％

（4）単位水量（W）　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

（5）単位セメント量（C）　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 175 ÷ 53.5 × 100 ＝ 328　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 328 ÷ 3.02 ＝ 109　ℓ/m³

（6）空気量（A）　A ＝ 4.5 ％ × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

（7）細骨材率（s/a）　当工場の実績により　s/a ＝ 45.2 ％

（8）単位細骨材量（S）　Sv ＝ (1000 － (W＋Cv＋A)) × s/a ＝ 671 × 45.2 ％ ＝ 303　ℓ/m³

S ＝ Sv × 表乾密度 ＝ 303 × 2.67 ＝ 809　kg/m³

S1 ＝ S × 60.0 ％ ＝ 485　kg/m³

S2 ＝ S × 40.0 ％ ＝ 324　kg/m³

（9）単位粗骨材量（G）　Gv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Sv＋A) ＝ 1000 － 632 ＝ 368　ℓ/m³

G ＝ Gv × 表乾密度 ＝ 368 × 2.63 ＝ 968　kg/m³

(10) 単位混和剤量（Ad）　Ad1 ＝ C × 添加率 ＝ 328 × 0.8000 ％ ＝ 2.62　kg/m³

Ad2 ＝ C × 添加率 ＝ 328 × 0.5000 ％ ＝ 1.64　kg/m³

配 合 表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	2.62	1.64	－

水セメント比	53.5 ％	細骨材率	45.2 ％	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②	60.0:40.0

備考

No. 2

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。 夏期配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％　0.6
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	1.0
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	3.28	1.97	－

水セメント比	53.5％	水結合材比	－％	細骨材率	45.2％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　60.0:40.0

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

（1）変動係数（v）　　当工場の実績により　v ＝ 9　％

（2）配合強度（m）

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.94$ N/㎟

よって　$m = 32.94$ N/㎟

（3）水セメント比（W/C）　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (32.94 + 24.5) \times 100 = 53.5$ ％ ≦【55％（上限値）】

∴W/C ＝ 53.5 ％

（4）単位水量（W）　　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

（5）単位セメント量（C）　$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 53.5 \times 100 = 328$　kg/m³

$C_v = C \div$ 密度 $= 328 \div 3.02 = 109$　ℓ/m³

（6）空気量（A）　$A = 4.5$ ％ $\times 1000 = 45$　ℓ/m³

（7）細骨材率（s/a）　　当工場の実績により　s/a ＝ 45.2　％

（8）単位細骨材量（S）　$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 45.2$ ％ $= 303$　ℓ/m³

$S = S_v \times$ 表乾密度 $= 303 \times 2.67 = 809$　kg/m³

$S1 = S \times 60.0$ ％ $= 485$　kg/m³

$S2 = S \times 40.0$ ％ $= 324$　kg/m³

（9）単位粗骨材量（G）　$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 632 = 368$　ℓ/m³

$G = G_v \times$ 表乾密度 $= 368 \times 2.63 = 968$　kg/m³

(10) 単位混和剤量（Ad）　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 328 \times 1.0000$ ％ $= 3.28$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 328 \times 0.6000$ ％ $= 1.97$　kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	3.28	1.97	－

水セメント比	53.5 ％	細骨材率	45.2 ％	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②	60.0:40.0

備考

No. 3

レディーミクストコンクリート配合計画書

2025年 4月 1日

広島県生コンクリート工業組合技術委員会 殿

竹原小野田レミコン株式会社
竹原市忠海長浜3丁目4番32号

配合計画者名　金本英司

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準期（3月11日～6月10日、9月21日～12月10日）　左記以外の期間は備考欄に記載。 冬期配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	－％		

使用材料

セメント	生産者名	日鉄高炉セメント(株)	密度 g/cm³	3.02	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	三原市大畑町（砕砂）	A	化学法	5	2.80	2.58	2.61	3.0±2.0
	②	高炉スラグ	福山市鋼管町（高炉スラグ）	－	－	5	2.55	2.72	2.76	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2005	三原市大畑町（中国物産）2005	A	化学法	20～5	6.70	－	2.63	0.5±0.5
	②	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10Ｌ	種類	AE減水剤(標準形Ｉ種)	Na_2Oeq ％　0.6
混和剤②		フローリックＡＥ－６		ＡＥ剤Ｉ種	1.0
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	上澄水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	1.97	1.48	－

水セメント比	53.5％	水結合材比	－％	細骨材率	45.2％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（質量混合）	細骨材①:②　60.0:40.0

修正配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。

夏期（６月１１日～９月２０日）Ad1＋0.2%　冬期（12月11日～3月10日）Ad1－0.2%

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	－ kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	－日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	－％		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 9　％

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.22$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 27 = 32.94$ N/㎟

よって　$m = 32.94$ N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　$m = -24.5 + 30.8 \times C/W$

$W/C = 30.8 \div (32.94 + 24.5) \times 100 = 53.5$ ％ ≦【55%(上限値)】

∴W/C ＝ 53.5 ％

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 175　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 175 \div 53.5 \times 100 = 328$　kg/m³

$C_v = C \div$ 密度 $= 328 \div 3.02 = 109$　ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a ＝ 45.2 ％

(8)単位細骨材量(S)　$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 45.2\ \% = 303$　ℓ/m³

$S = S_v \times$ 表乾密度 $= 303 \times 2.67 = 809$　kg/m³

$S1 = S \times 60.0\ \% = 485$　kg/m³

$S2 = S \times 40.0\ \% = 324$　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 632 = 368$　ℓ/m³

$G = G_v \times$ 表乾密度 $= 368 \times 2.63 = 968$　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad1 = C \times$ 添加率 $= 328 \times 0.6000\ \% = 1.97$　kg/m³

$Ad2 = C \times$ 添加率 $= 328 \times 0.4500\ \% = 1.48$　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
328	－	－	175	485	324	－	968	－	－	－	1.97	1.48	－

水セメント比	53.5 ％	細骨材率	45.2 ％	骨材混合比(質量混合)	細骨材①:②	60.0:40.0

備考